

S-バイオウェブセミナー Vol.2

オルガノイド製造・創薬研究 の最新動向

English Seminar

THE ORGANOID COMPANY BV
CEO

トーマス・ミッチェル



CSO
エルnst・ウォルフエタング



坂口秀哉 室長

国立研究開発法人
国立成育医療研究センター
精密創薬研究部実験薬理研究室

2026年 9月10日 木

16:00 START

(予定: 約90分)

参加無料

オンライン申込



https://sumibe-jp.zoom.us/webinar/register/WN_E7V_ObdrRDky-NvjdpLv8A

お問い合わせ: S-バイオ事業部 マーケティング・営業部
E-mail: s-bio_inquiry@ml.sumibe.co.jp

演者紹介

坂口 秀哉（さかぐち ひでや） 室長

ご所属： 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
精密創薬研究部 実験薬理研究室

ご略歴： 2008年熊本大学医学部卒。臨床医を経て理化学研究所（笹井研）にて基礎研究を開始。2016年京都大学大学院医学研究科修了（医学博士）。その後、京都大学iPS細胞研究所、Salk研究所、理化学研究所BDR（研究リーダー）を経て、2025年9月より現職。海馬、脈絡叢、脊髄オルガノイドの作製に世界で初めて成功し、現在は神経オルガノイドの基礎・応用研究を幅広く推進。日本再生医療学会奨励賞など多数受賞。



トーマス・ミッチェル（Thomas Mitchell） CEO

ご所属： The Organoid Company, CEO & Co-founder

ご略歴： 世界的バイオテック企業の経営幹部であり、創薬開発のスペシャリスト。Finch Therapeuticsの初期メンバーとして武田薬品との提携を主導したほか、MicrobioticaではGenentechとの5.34億ドル規模の共同研究を牽引。BiomeBankのCEOとしては、同社をマイクロバイオーム創薬のグローバルリーダーへと再編成し、初の製品承認を達成。現在はThe Organoid Companyを率い、オルガノイドの自動化大量生産によるボトルネック解消に挑む。



エルンスト・ウォルフエタング（Ernst Wolvetang） CSO／教授

ご所属： The Organoid Company, CSO & Co-founder
クイーンズランド大学 教授

ご略歴： 幹細胞生物学およびオルガノイド開発における世界の第一人者。アムステルダム大学にてPhD取得後、オーストラリアにおけるヒトES細胞研究の先駆者として活躍。2008年よりクイーンズランド大学AIBN幹細胞エンジニアリングラボを率い、オーストラリア・オルガノイド施設（AOF）のディレクターを兼任。CRISPR編集を施した脳および脊髄オルガノイドを用いた神経疾患モデルや、ロボット自動化技術の研究を推進。



演題

【講演1】

演題： 発生学を元にした神経オルガノイド研究の成り立ち、および創薬研究への期待

演者： 坂口 秀哉 室長

【講演2】

演題： Self-healing automated manufacturing of multi-lineage organoids for multi-organ toxicity testing

演者： トーマス・ミッチェル CEO

エルンスト・ウォルフエタング（Ernst Wolvetang） CSO／教授



住友ベークライト株式会社